



公益社団法人

いわて被害者支援センターだより

2015

発行:公益社団法人
いわて被害者支援センター
〒020-0021
岩手県盛岡市中央通3-10-2
(岩手県立県民生活センター 2F)
TEL/FAX:019-621-3750
E-mail:info.niji.50@iwate-vsc.jp
URL:http://www.iwate-vsc.jp

○犯罪被害者支援 県民のつどいを開催

いわて被害者支援センターと県警察は9月27日盛岡市民文化ホール(マリオス)で「26年度犯罪被害者支援県民のつどい」を開催しました。昨年までは被害者支援センターが「犯罪被害者支援フォーラム」として開催していましたが、県民に広く支援の輪を広げたいということで内容を一新しました。

主催者の細江理事長は「地域全体で被害者を支える社会づくりを目指す」。田中俊恵県警本部長は「突然の事件や事故で深い傷を負い、苦しんでいる人は多い。支援の輪を広げたい」と挨拶した。

来賓の岩手県知事、岩手県議会議長からの祝辞の後、講演で

は、全国被害者支援ネットワークの平井理事長が「犯罪被害者—私の体験」と題して「犯罪被害は時間が解決するものではない」と、約350人が犯罪被害者に対する理解と支援の必要性について理解を訴えました。

また、みやぎ被害者支援センターの理事であるシンガーソングライターのさとう宗幸さんによる50分間の「ふれあいコンサート」が開かれました。



～ 平井理事長講演 要旨 ～



1996年9月の夕方、北京の日本大使館から電話で「息子が首を切られて死んだ」「財布がないなど」が告げられた。

当時、大学生だった息子は中国を旅行中で毎週「今週はこうだった」と連絡をしてくれたので初めは息子からの電話だと思った。

その後、マスコミからの電話が次から次とかかってきた。インターホンも鳴りやまなかった。当時の記憶は連続しない。寝る。食べるというこれまで送ってきた日常の生活が全くできなくなった。「なぜ旅行を止めなかったのか」という自責の念にかられた。

家族のメモには電話やインターホンの音が耳から離れないとある。今もそうだろう。もう18年経った。人は「時間が解決する」というが被害者にとっては時間が解決するものではない。何気ない言葉にも傷つく。事件後、しばらく外出できなかった妻が勇気を出して買い物に出かけると「元気そうですね」と声をかけられた。善意の励ましの言葉だと思う

が「やっとの思いで勇気を振り絞って外出したのに何が元気なの」との思いは、今も妻の心に残っている。

自分も会社を半月ほど休み、辞職も考えた。約2か月は十分な仕事はできなかった。「5年ごとが一区切り」と考えているが息子の墓参りは10年間、毎週続いた。学生時代の友人が毎年訪ねてくれ、妻や娘の大きな力になっている。私にとっては会社の同僚や上司が支えてくれた。その後、96年に京都被害者支援センターの立ち上げに関わった。この事件がなければ定年後も会社の仕事をしていただろうが、息子が導いてくれていると思い全国組織の活動を行なっている。

被害により家族の人生は180度変わる。犯罪被害は時間が解決するものではないと心の傷を訴え、私のような重大な事件の被害者家族はもとより、新聞に小さく載るような事件や事故であっても、その被害者や家族の多くは親戚、職場、地域社会に助けを求めている。少しでもその立場を理解することが支援の一助になる。

プロフィール

- ・昭和15年生まれ
- ・認定特定非営利活動法人全国被害者支援ネットワーク理事長
- ・公益社団法人京都被害者支援センター副理事長
- ・元オムロン株式会社 取締役副社長

○岩手県犯罪被害者等支援連絡会の総会が開催されました

12月1日盛岡東警察署大会議室において、県や検察庁・国土交通省、各警察署、各警察被害者支援連絡協議会など会員約50名が参加し平成26年度「岩手県犯罪被害者等支援連絡会総会」が開催されました。

総会では細江会長の挨拶の後、平成25年度の事業報告及び平成26年度事業計画が審議され、いずれも満場一致で承認さ

れました。その後、日本司法センター(法テラス)と県警察本部による活動事例の報告がありました。

講演では全国被害者支援ネットワーク平井理事長が「犯罪被害者支援の現状とこれから目指すもの」と題し、全国ネットワークの役割と人材育成の必要性及び都道府県支援センターの活動について講演をされました。

○平成26年度 支援活動の状況

平成26年中の電話相談は201件、面接相談39件、メール相談10件といずれも過去最高を記録した25年中と比較して若干減少しておりますが、支援センターの本来業務であります警察や検察庁、裁判所、弁護士事務所への付き添い、これらとの支援の打合せのほか自宅訪問、被害直後の日常生活支援、裁判の代理傍聴などの直接的支援は184件となり、これまでで最も多かった昨年同期比でも155件の増となりました。

支援センターでは被害者やご家族ができるかぎり一日も早く被害前の生活にもどれるよう、ボランティアの中から厳選された支援活動員がその立場に立って計画的に様々な支援を行っております。

中でも必要な情報をタイムリーに正しく伝えることにも配慮しておりますが、震災特例法により震災当日に県内に居住されていた被害者やその家族の方は、3回まで無料で被害者支援に理解ある弁護士に相談ができる制度を活用している方が増

加しております。弁護士事務所には支援センターの活動員の付き添いも行ってあります。

詳しくは事務局までご相談ください。

活動の状況(平成26年1月～12月)

直接的支援	電話相談	面談相談	メール相談
184件	201件	39件	10件

直接的支援活動の内訳

犯罪の種類	件数	前年比
殺人	29件	20件増
性犯罪	54件	43件増
暴行・傷害	15件	15件増
交通事故	75件	67件増
その他	11件	10件増
計	184件	

○臨時総会の開催

11月29日エスポワール岩手で平成26年度第2回理事会及び臨時総会を開催しました。

今回の総会は、日本財団から助成を受け、財政基盤の安定と充実した被害者支援業務のため様々な取り組みを行なった結果、賛助会費及び寄付金が増加したことにより公益事業を適正に執行するため「平成26年度収支補正予算(案)」を議案とし審議をしました。

補正の内容は、経常費用で「事業費」の当初予算額14,185,000円を3,178,000円増額し、17,363,000円とし、「管理費」当初予算額3,883,000円を154,000円減額し3,729,000円とするもので議案は満場一致で承認されました。

なお、総会に先立って行われた理事会では総会議案の他、賛助会員入会者(法人及び個人)の決定の審議並びに6月から10月までの職務執行状況の報告が行われました。

◆収入の部 (円)

会費	4,130,000
補助金等	12,790,000
岩手県補助金	(1,500,000)
日本財団助成金	(10,540,000)
いきいき岩手支援財団助成金	(750,000)
市町村負担金	1,677,000
寄付金	2,500,000
雑収益	1,000

◆支出の部 (円)

事業費	17,363,000
管理費	3,729,000

○ワンクリック募金を始めました。

いわて被害者支援センターでは9月から「ワンクリック募金」を始めました。

これは当センターのホームページ閲覧者が協賛した企業・団体のバナー広告を1回クリックするごとに10円がセンターに寄付されるもので1企業・団体からの寄付は1カ月当たりクリック300回3千円が上限で、年に一度合計額が支援センターに振り込まれます。

現在、ホームページに下記の10企業・団体から協賛をいただきバナー広告を掲載しております。10月及び11月とも全企業・団体とも毎月1,000回以上のクリックの協力がありますが、クリックすると企業等のホームページにリンクされることから企業の広報にもなっております。



当センターホームページより

○募金付自動販売機にご協力をいただきました。

新たに次の企業様から募金付自動販売機を設置していただきました。ご協力ありがとうございました。

- ・アジテック(北上) 2台
- ・三菱製紙(北上) 2台
- ・フジサキ(北上) 2台
- ・宮古自動車学校
- ・岩手県予防医学協会



○ホンデリング(本で広がる支援の輪)

3月から始めました読み終えた本を買い取り業者に送っていただくことにより査定額を支援センターに寄付されるホンデリングにつきましては、9月末現在で79箱2,473冊が送られ、内822冊が業者に買い取られました。

支援センターには46,358円が寄付されました。

ホンデリングは、コンビニ等で販売されている書籍を除き、裏表紙にISBN(国際図書標準規格)の表示がなされたもので、専門書は高い価格で買い取られます。

また、11月16日付岩手日報で大きく掲載された岩手県立大学生ボランティアセンターの皆さんには、学内にホンデリングボックスを設置し、読み終えた本を気軽にボックスに投函していただいているほか、同大図書館や近隣のイノベーションセンターからも協力をいただくなど積極的な取り組みを行っています。



岩手日報 2014年11月16日

○岩手のキャラクターが犯罪被害者支援を呼びかけ



11月8日(土)イオンモール盛岡で「被害者を守る岩手のキャラクター大集合・犯罪被害者支援キャンペーン」を開催しました。

当日は、県警や県のキャラクターの他、IBC岩手放送、テレビ岩手、岩手朝日放送、めんこいテレビの県内民放テレビ局から7体のマスコットが参加し、県警の雨びかば・風びかばが「事件後も被害者や家族の悩みは続く、メディアが正しい情報を伝えることが、無責任やうわさや中傷などの二次被害を防ぐ」と訴えました。

当日は、各マスコットが店内を回りながらポケットティッシュや風船の配布などを行ない、来店した子供たちには大人気でした。

○北部三県警察音楽隊合同演奏会



11月23日(土)13時30分から県民会館大ホールで「北部三県警察音楽隊合同演奏会」が開かれました。

開会前に支援センターの支援活動員11名と岩手県立大学学生ボランティアグループの5名の学生が訪れた約1,300人の観客に対し、ポケットティッシュを配布し、犯罪被害者支援についての理解を呼びかけました。

また、ホール入口には広報パネルを設置したほか、入口2か所に募金箱を置き協力を求めました。

○県警音楽隊による「ふれあいミニコンサート」を開催



10月3日の「犯罪被害者支援の日」に合わせて10月4日(土)イオンモール盛岡セントラルコートで県警音楽隊によるミニコンサートを開催しました。

約30人の音楽隊員が参加し、アニメソングなどを披露し、隊員が演奏に合わせてダンスをするなど会場は大いに盛り上がりました。

また、多くの観客に対しポケットティッシュを配付しました。

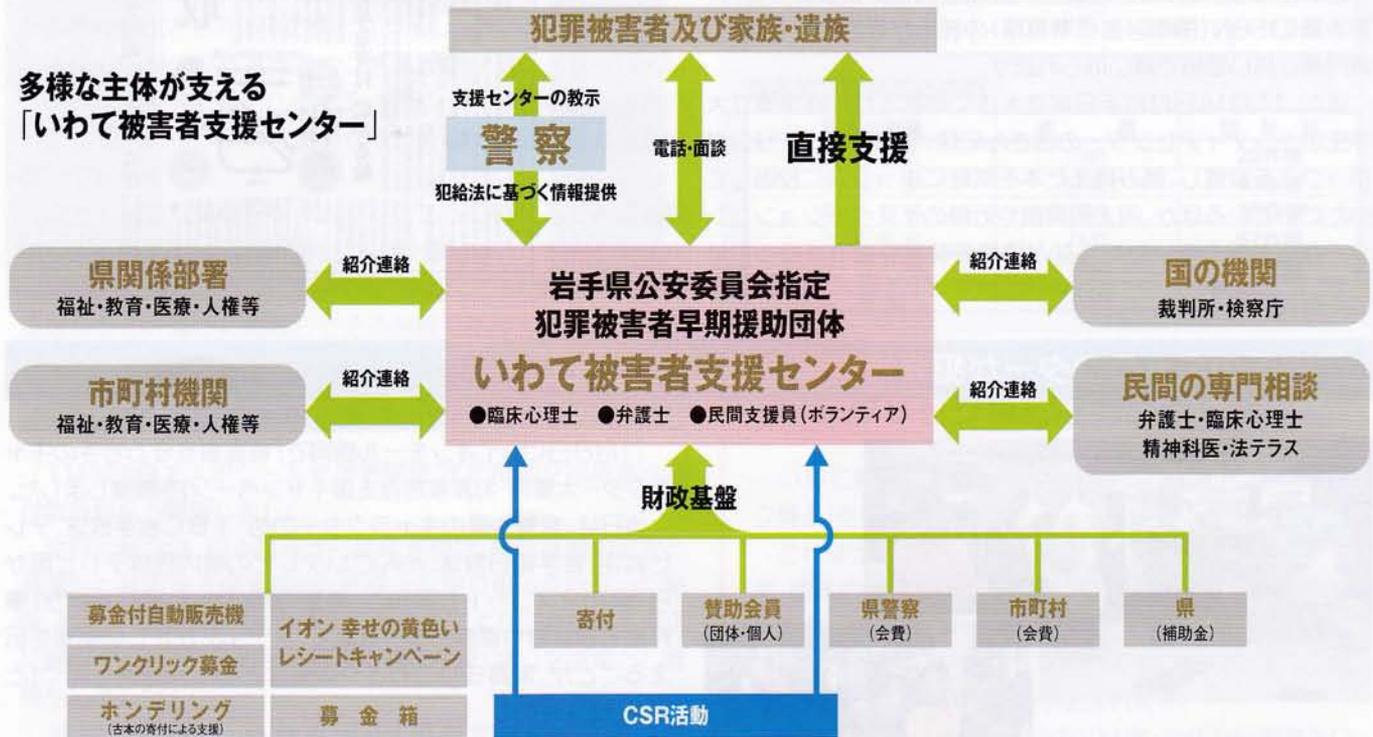
○被害者支援センターの活動

命を奪われる、怪我をさせられる、家族を失う、財産を奪われるなどの被害を一次被害。その後時間の経過に伴い、被害者や家族が直面する様々な問題を二次被害と呼んでおります。

二次被害の程度は、事件や事故の種類や内容、男女別、年齢、被害者等の生活環境等により異なりますが、程度の差こそあれ

誰しもが直面することとなります。

しかも複数にわたる二次被害に苦しめられる方も少なくありません。支援センターはこのような二次被害の解決や軽減するため、面接相談や付添い支援など様々な支援活動を行なっております。



○26年度中の出張相談所の開設

支援センターへの電話相談や支援件数が増加しておりますが、盛岡まで来られない方のために二戸市及び水沢区で出張相談所を開設しておりますが、26年度の予定は次のとおりです。

予約は不要ですのでお気軽にお越しください。

〈二戸市〉 二戸地域振興センター 1階地域交流ルーム
1月14日(水) 2月12日(木) 3月18日(水)

〈水沢区〉 県奥州地区合同庁舎 1階県民室
1月21日(水) 2月25日(水) 3月25日(水)

平成27年
被害者支援県民のつどい

平成27年9月26日(土)13時～15時30分
盛岡市永井 キャラホール(盛岡市都南文化会館)
感謝状の贈呈、講演、ふれあいコンサート(さとう宗幸氏)

皆様方の会費や寄付金は、公報啓発費のほか、被害者・ご遺族の支援活動(車輛借上費、支援員交通費・安全管理費、面接、相談等通信費)に活用させていただいています。